

05年度(平17)校友会代議員会

発展へ向け活発討論—新校友会長に甘竹秀雄氏

05年度(平17)専修大学校友会代議員会が、5月28日午後3時から神田校舎303号教室で開かれ、全国から代議員198人(委任状403)が出席、会の進展を願って熱心な討論が展開された。



甘竹秀雄氏

代議員会は河本雄三総務部長(昭45経済)の司会で、小林清会長が議長となり、第1号議案「平成16年度事業・決算報告承認の件」、第2号議案「平成16年度監査報告の件」、第3号議案「平成17年度事業計画(案)、収支予算(案)承認の件」、第4号議案「校友会会則改正について」、第5号議案「役員改選について」を、それぞれ原案通り承認した。

また任期満了に伴う、小林会長の後任に甘竹秀雄氏(昭33商経商=(株)アマタケ代表取締役会長・岩手県大船渡商工会議所会頭)が推薦され、満場一致で承認された。任期は2年。

なお小林前会長は、最高顧問として引き続き校友会を指導・支援する。

会終了のあと、午後5時30分から15階ホールで懇親会が催され、再会を祝す和やかな懐旧談の輪が続いていた。

(新会長紹介及び3号議案・5号議案については7月号に掲載します。4号議案「校友会会則改正については「アドニス」35号で詳細の予定です)。

文学部・新井勝紘ゼミが解説

軍事郵便を展示『一戦没兵士のビルマ便り』

故郷・川崎に届いた百余通

歴史学専攻(日本近代史)の新井勝紘ゼミでは、川崎市出身でビルマ戦線・インパール作戦の渦中に戦死した一人の兵士が家族あてに出した100通あまりの郵便を解説し、「専修史学」に発表した。ご遺族からの聞き取りやフィールド調査も実施した学習成果を、本学学生ならびに広く一般の方々に見ていただきたいと、軍事郵便などの展示会を下記により開催する。

▼日程＝7/4(月)～7/17(日)9時～17時

▼場所＝生田キャンパス9号館1階展示フロア

《専大校友を訪ねて》

ネットワークとバランス感覚

—中央公論新社の書籍編集部で活躍する 高松紀仁さん(平5文)



「人と会い、人間関係を作ること」。編集者としての究極の仕事と言う。「何を引き出し、どうやって料理するか。そのためには何を考えているか読み取ること。バランス感覚が大切です」。

編集者歴13年。言論雑誌として名高い『中央公論』や婦人雑誌のさきがけ『婦人公論』を誕生させ、現在は良書路線を軸に電子書籍、オンデマンド出版も手掛けている中央公論新社。その書籍編集部門の第一線で活躍する。森村誠一、馳星周、恩田陸、垣根涼介…と当代一流のエンタテインメント作家を担当している。

硬質な編集者イメージと違い「営業センスが備わっている。目線が低い」と行動派の編集者が周囲の一致した人物評。専大文学部マスコミ講座の恩師で今も交流が続く権田萬治教授は「とにかく明るい。人当たりの良さは抜群ですね」。

振り出しは児童書、オーディション雑誌のほか文芸も扱う勁文社。小規模の出版社だったが「『本の作り方』を体に叩き込まれました」。コンピュータ・インターネット雑誌大手のアスキーに移り、書籍部門を担当。その間、作家や編集者とのネットワークを培い、人脈を増やしていった。2000年、新社として再出発間もない中央公論新社にヘッドハンティングされ5年目を迎えた。

ロバート・キャパ、沢田教一ら戦場カメラマンにあこがれ、新聞記者志望だった専大時代。ゼミでは石黒吉次郎教授指導の中世文学の世界に入った。サークルは風土研究同好会で民話をフィールドワーク。インドに貧乏旅行をしたことも。石黒教授や権田教授、学部を越えた学生たちとの出会いや体験が「もの」を見極める目を養い、現在のベースになった。夫人も同業他社の編集者。

残念なのは編集者仲間に「専大卒」が少ないこと。「あきらめないでチャンスを最大限に生かせ」。プラス志向の生き方が、母校への思いに重なる。

《専修人の新しい本》

「コーポレート・レピュテーション「企業の評判」をマネジメントする」

櫻井通晴 著

これまで日本の研究者がまったく等閑視してきたコーポレート・レピュテーション(企業の評判)の研究成果である。球団の取得によって楽天は本年度には昨年の3・5倍の利益をあげるなど、最近では企業の評判が利益を大きく押し上げる要因になってきた。最近のようにブランドや知的資産、あるいはレピュテーションなどの無形資産が企業価値を大きく押し上げる社会では、当然のことである。

ゼミ生は原稿を読んでエキサイトしたと聞かすが、学生にとっても最適の書である。(中央経済社・本体2400円+税)

著者(さくらい・みちはる)＝経営学部教授。担当は管理会計。



「日・韓卸売構造の変化に関する研究」

金成洙 著

日本の流通業の中でも特に高度な発展を遂げてきた卸売業。一方、韓国のそれは、1980年代後半以降著しく成長してきたが、近年、やはり大規模小売店の参入により、その成長に歯止めがかかりそうである。

本書では、そのような現状を踏まえて両国の卸売業の基本的な特徴を明らかにし、深部で起きている現在の問題、勝ち残るためにいかなる卸売機能を戦略的に高度化すべきか、いかなる選択肢が最も適切かを膨大なアンケートのデータ解析から解明している。(専大出版局・本体3400円+税)

著者(キム・ソンス)＝専修大学北海道短期大学商科講師。担当はマーケティング論。(平16院経営博)※平成16年度博士論文刊行助成。



「技術・倫理・教育」

市川功 著

本書は、多面的な知識を網羅し、豊富な事例分析の資料を取り上げることが目的としたいわゆる技術者倫理のテキストではなく(既にそうした類の著作は何冊も出ている)、技術の基盤を技術外の人間—社会のさまざまな条件との関係・つながりから捉えねばならないという前提のもとに、「技術者倫理」において、これまで必ずしも十分に分析されてはこなかった教育実践の基礎をピアジェ-コールバーク理論から明確にすることを意図している。「技術者倫理教育」を考察する上での一書。(晃洋書房・本体1800円+税)著者(いちかわ・いさお)＝商学部非常勤講師。担当は哲学、倫理学。(昭61院文博)



「技術・倫理・教育」